

荒木特許事務所

ゴマメ通信

(201505号)

発行人：発明を育てる会（千葉発明研究会）^{きまひりやく}肝入役
 荒木特許事務所 弁理士 荒木 昭 生
 住 所：（千葉本室）
 〒 261-0004 千葉市美浜区高洲2-7-5-103
 Tel./fax043-245-8721 Email:a-araki099@nifty.com



H27. 9. 28 撮影

ベランダから中秋の名月を撮影しようとしたが、団地の間から雲に邪魔されてこんな写真しか撮れなかった。高画素のカメラと望遠レンズがあれば少しは綺麗な月面が撮影できたと思うが、昔の人もこんな満月を見て満足していたに違いない。望遠レンズで撮影した痘痕面の月を見ても興覚めになるだけだと、自己満足して月見団子で一杯やった。

この通信は、知的財産関連情報や時に感じる話題に関して、筆者のゴマメが自己の知人や友人に気の向くままに発信する一種のエッセーである。ゴマメの生存の証に「ゴマメの戯言」としてご笑覧くだされば幸甚です

東京オリンピックの開催時期に思う

東京オリンピック開催に関して、新国立競技場やエンブレムの選考問題が世間を騒がせたが、オリンピックの開催時期にも問題がある。何で猛暑の夏にオリンピックを開催せなければならぬのか理解に苦しむところである。我が国には、他国に見られない独特の四季がある。スポーツに快適な条件を自然が創りだしてくれる。

昼は自然の空気を満喫し、スポーツの祭典に参加して熱狂の叫びを上げ、夜は秋の名月を眺めながら、疲れを癒やすのに、格別な設備もエネルギーも不要である。単に開催時期を1ヶ月遅くするだけで無料の快適な自然の空調環境を得られるのである。東京の人口は1335万人で、日本の総人口1億2730万人の約1割を占める。オリンピックには、2000～3000万人の訪日観光客が見込まれているそうだが、少な目に訪日観光者数を2000万人としても東京の人口は一挙に2.5倍に膨れあがる。

日本で一番暑い夏にオリンピックを開催すれば、電力も倍増する。オリンピックの開催時期を1ヶ月遅らせるだけで、オリンピックのために倍増する冷房用の電力は殆ど不要となるだろう。清涼感は日本の自然が無料で恵んでくれるのである。更に、オリンピックの開催時期の遅れは美しい日本の自然を海外の観光客に実感して貰う良い機会となると思うが、最早取り返しはつかないようである。

ノーベル賞と発明の対価

ところで、今週はノーベル賞の嬉しいニュースが相次いで報道された。ノーベル賞は、文学賞や平和賞を含む6つの部門に授与される。しかし、技術系の部門では、特許発明がノーベル賞の対象となる例が多く、職務発明については、発明者は企業からその発明による相当の対価の支払を受ける権利を有する旨の規定があるため、特許の対価を巡って特許係争が生じる例もある。ノーベル賞を受けた「青色発光ダイオード」の発明が特許係争で話題となったことは、つい昨年のものである。

ノーベル賞の賞金は、1部門で800万クローナ（約1億1200万円）が与えられ受賞者に分配されるという。今回の「ノーベル医学生理学賞」の大村智さん（北里大学特別栄誉教授）と、「ノーベル物理学賞」の梶田隆章さん（東京大学教授）とは、共に自己の研究の成果に対して与えられたノーベル賞に満足しているようである。

金と名誉に固執し、前言を翻し、支援者を裏切るような政治屋とは縁遠い姿勢の二人のノーベル受賞者に心からお祝い申し上げたい。

ちなみに、平成5年から平成27年の間、北里研究所の関係する特許出願は392件で、その中の147件に発明者の一人として大村智の名前が見られる。ある新聞によれば大村智教授のノーベル賞は「平和賞であっても不思議ではない」、と記載されていた。特許係争などゴマメの心配は杞憂であることを祈っている。